

# 茨城大学学報

第266号

平成18年4月～平成18年5月



桜満開で新入生を迎えた大学教育センター

## INDEX

- ◆平成18年度茨城大学入学式
- ◆新歓祭の開催
- ◆茨城大学社会連携事業会理事会を開催
- ◆「入学センター」看板上掲式を実施
- ◆バングラデシュ農業大学と学術交流・学生交流協定を締結
- ◆平成18年度全国大学附属農場協議会
- ◆寺島薬局(株)から奨学金の寄贈
- ◆男子柔道部が関東大会二部団体戦で優勝
- ◆新任教職員研修会について
- ◆農学部で1年時生との交流会を開催
- ◆「NHK県域デジタルTV放送」茨大タスクフォースだより

4月号

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## 平成 18 年度茨城大学入学式

平成 18 年度入学式は、4 月 11 日(火)午前 10 時から茨城県武道館において、学長、役員、部局長、評議員等の参列のもとに挙行されました。

式は、入学生とその保護者らが出席し、会場が満席のなか本学吹奏楽団による国歌吹奏に始まり、入学生紹介及び各学部等総代の宣誓書提出があり、続いて、菊池学長から学部、大学院及び専攻科の入学生と各学部編入学生の合計 2,381 名に対する入学許可、式辞、役員・部局長等の紹介がありました。更に、入学生総代寺田次郎さん(理学部)の宣誓があり、参列者全員で校歌を斉唱して閉会となりました。

### ◇ 学長式辞

茨城大学長 菊池龍三郎

平成 18 年度入学生のみなさん。茨城大学入学本当におめでとうございます。本学を代表して心からお祝いを申し上げます。あたたかも季節がみなさんの入学を祝うかのように、桜花爛漫と咲き誇る今日この日に、平成 18 年度入学式を挙行し、みなさんを茨城大学にお迎えすることに、私たち教職員一同心から慶んでおります。

ご承知のように、茨城大学は、今年で創立 57 周年を迎えます。5 つの学部と各分野の専門の教育研究センター等を数多く擁する本学は、規模も大きく、教育と研究に関する優れたスタッフを多数擁し、教育と研究の両面で全国有数の地方国立総合大学であります。

この後数日間にわたって、いろいろなガイダンスがありますので、本学のおおまかな姿についてはその機会に知って戴きたいと思いますが、本学では、国立大学の長所である少人数教育等よって、入学されたみなさんの期待に必ずや応えることができると思います。

まず教養教育では、幅広く豊かな市民的教養と社会性、そして健康づくりの基礎を培うための豊富なメニューが用意されています。さらに外国語教育、とりわけ英語教育については、従来の「読む」だけの英語教育ではなく、「読む・聴く・話す・書く」の 4 つの分野



の英語力をバランスよく育てていくための「総合英語プログラム」を全学に導入しております。さらに、この中から希望者を対象にして、交流協定を結んでいるアメリカ西海岸にあるイースタン・ワシントン大学に短期の語学研修もはじめております。

本学は、今申し上げたような他にもアジアを中心としていくつかの国々との間で交流協定を結び、国際化時代の中でみなさんに見聞を広めていただくための実際的な機会を用意しております。

茨城大学の研究の状況についても簡単に紹介しておきます。まず文科系・教育系について言えば、本学では、例えば出版した本が出版文化賞を受賞したとか、研究が学会賞を獲得したとか、国際的に注目されたり高い評価を受けている等の優れたスタッフを数多く擁しています。先生方ひとりひとりが行う授業は、それぞれが長年の研究に裏付けられたものであることから楽しく、ためになり、必ずみなさんの知的な関心を満たしてくれるはずです。

理科系の学部や領域でも、今注目を浴びつつある研究分野・研究プロジェクトが沢山あります。そのうち大きなプロジェクトの例を二、三挙げてみます。例えば、本学では東海村に建設中の大強度陽子加速器を利用して中性子線の産業利用を促進する大型の研究計画に参加していますが、この中では例えば本学の先生が世界的に有名なノーベル賞受賞者などと共同して行う研究計画などが今注目を浴び始めています。

また、去年は農学部の先生方と学生達が地域の方々と一緒になって頑張り、いわゆる国の競争的資金のひとつである現代 GP に選ばれました。さらにその成果を地域の休耕地の再生に結びつけ注目されました。これは大変な成果です。

また、先日、東京大学を統轄大学とする「サステイナビリティ学連携研究機構」に、京都大学、大阪大学、北海道大学等のいわゆる旧制帝大系の大学に交じって、みなさんの茨城大学の参加が決定しました。異常気象などの気候変動、環境破壊、人口増と食糧難が進行する中で、この持続可能な地球をどうつくり、それを次の世代にどう残していくかについて、世界をリードする研究拠点を構築しようとするもので、ここに地方国立大学である本学の参加が決定したことは、内外から大きな関心と呼んでいるところです。厳しい大学間競争の中にあっても、全国有数の地方国立大学を目指している茨城大学は、着実に発展していることをみなさんに知って戴きたいと思っております。



さて、入学に当たり、みなさんにいくつか期待の言葉を贈りたいと思います。

第一に、本学での学習においては、ぜひ、「行動する知性」、言い換えれば社会を変えていく知性を培って戴きたいと思います。私たちの方でも、みなさんの努力が報われる大学、みなさんが抱く期待や夢の実現を力強くバックアップできる大学になりたいと思っています。その意味でもみなさんの茨城大学は、みなさんと一緒になって「共に希望を語る大学」でなければならないと強く願っています。

例えば一例を挙げます。この3月に工学部を卒業したある女子学生が、自分の卒業研究の一環として、茨城大学の環境報告書づくりを手伝ってくれました。彼女は、京都議定書にはじまり、我が国の環境行政に関わる様々な答申、様々な法律等を勉強し、さらに環境を悪化させる様々の要因について相当に突っ込んで勉強しました。その上で、茨城大学がどれだけ地球資源を使っているかを調べました。大学で使われている電気、ガス、上下水道等の消費量はもとより、可燃ごみの量等様々のデータを全部自分の足を使って調べた上で、それらの処理に伴って地球温暖化の原因である二酸化炭素がどれくらい発生することになるのか、その排出量を全部計算してくれたのです。なんと本学は年間7, 500トンに及ぶ膨大な量の二酸化炭素を排出しているというものでした。また本学で教職員や学生が使っているコピー用紙の量は、すべて再生紙であり、かつ相当に節約に努力しているとは言っても、なんと、まだ1, 100万枚に達しているというものでした。私は驚きました。そして、茨城大学を、さらに世界を少しでもよくしようと願って彼女が払った努力と時間を大事にしようと考え、ぜひ、これからは本学でも、二酸化炭素排出量の削減を図り、限りある地球資源を長続きさせ、次の世代にしっかりと渡していくことに教職員も学生もみんなが積極的に努力する大学にしていきたいと思ったのでした。

そしてこのことこそが、冒頭の本学の研究状況のところで紹介した茨城大学が目指すサステナビリティ学の研究拠点、つまり持続可能な世界をつくって次の世代に受け継いでいくための国際的な研究拠点のひとつになろうとする茨城大学の名に恥じないあるべき姿だと考えました。みなさんにも、これからはどんな小さなことでもいいのです。自分が実行出来ることから持続可能な世界づくりに向けた「みんなで取り組むサステナビリティ学事始め」に参加して戴きたいと思います。それは何のためか。わたしたちがみなさんに持ってほしいと願う知性とは、このような行動的な知性だからです。つまり、みなさんが折角身につけた知性が眠ったままの大学ではなくて、生き生きと行動に結びつき、世界や社会を少しでもよくしていくことに貢献する大学にしていきたいと思うからです。

自動車メーカー本田の偉大な創業者である本田宗一郎氏は、「時代が進歩すれば、若者も進歩するに決まっている。永遠に若い人の知恵は進歩する。」と言ったそうです。これは次のように言い換えてもよいと思います。「若者が進歩すれば時代も進歩する。新しい時代を切り開く若い人の知恵は永遠に進歩する。」と。わたしたちの時代は、日々進歩しなければなりません。しかし、時代を切り開く先駆けとなるのは、やはりみなさんのような若者だということなのです。自分達の知性の進歩こそが時代を切り開くはずだという強い気概、高い志を持ってこれから学んで下さい。好きなこと、関心のあることにとことん突き進んで下さい。そのエネルギーは沢山あるはずです。学習だけでなく、本学は、課外活動の面でも特色ある活動が沢山あります。これにも思い切って参加し、若い情熱を注いで下さい。

健康には十分に気を付けて下さい。生活全体のサイクルやリズムを学習を中心として組み立てて下さい。大学生活は、自由度が増す代わりにみなさんには自己管理の努力と能力が求められます。なぜ自己管理能力が大事かと言うと、いずれ社会に出て行ってからみなさんは、この自己管理能力があるかないかを験されるからです。

それから大事なことをもうひとつ。これからの大学生活の中では、大学生活に慣れないとか、自分の専攻分野に馴染めないとか、人間関係がうまくいかないとかの悩みなどが少なからず出てくるかもしれません。そうした時に、みなさんのどんな悩み、どんな相談事にも対応できる体制ができています。絶対に、自分はひとりぼっちだ、自分は孤独だなどと思込まないようにして下さい。担任の先生や事務のスタッフにも遠慮なく気軽に声をかけて下さい。みんな待っています。何よりも大学では心を許せる友だちをつくって下さい。友だちがひとりでもできたらもう大学生活は成功です。

それから、本日大勢ご出席下さっている保護者の皆さま方にも心からお祝いを申し上げたいと思います。国立大学法人化後3年目を迎え、私たちの茨城大学は、入学した学生をしっかりと丁寧な教育する大学、学生が希望を持って学べる大学を目



指しています。卒業するとき、「茨城大学に入ってよかった」「茨城大学で学んでよかった」と評価して貰える大学を目指しております。そしてそのために教職員一同最大限の努力をしております。どうぞ、安心してお子さんを見守り励まして戴きたいと思えます。

なお、保護者の皆さま方には、本日保護者説明会を開き、そこで改めてお願い致しますが、今後ぜひ茨城大学教育研究助成会にご入会戴き、本学を様々な面からご支援戴ければと思えます。本日は会長さんにもお出で戴いておりますが、今後とも是非ともご支援、ご協力下さいますようお願い致します。

最後に新入生のみなさん、改めて入学おめでとう。これからのみなさんの健康と活躍を心から祈って式辞といたします。

## ◇ 新歓祭の開催

4月15日（土）、水戸キャンパスで平成18年度新歓祭が開催されました。

新歓祭は、学友会が主催する新入生歓迎企画実行委員会の企画によって毎年開催されているもので、本年度は62サークルが参加、構内に設置された趣向を凝らしたサークル紹介の看板が雰囲気盛り上げ中、バンドステージ、路上パフォーマンス、体験コーナーなどに多数の新入生が興味を示していました。



バンドステージ

## ◇ 茨城大学社会連携事業会理事会を開催

本学では、平成 18 年 4 月 20 日（木）、大学会館（茨苑会館）において茨城大学社会連携事業会理事会を開催しました。

当事業会では毎年 4 月に理事会を開催しており、今回は学内外合わせて 23 名の理事・監事が出席し、学長挨拶及び出席者の自己紹介の後、以下の議題について活発な議論が交わされました。

- ①社会連携事業会の「顧問」・「理事」の交替について
- ②平成 17 年度収支決算報告等について
- ③平成 18 年度事業方針等について
- ④その他
  - ・社会連携事業会の募金状況について
  - ・社会連携事業会の基盤強化のための組織整備について



理事会の様子



## ◇ 「入学センター」看板上掲式を実施

本学では、水戸キャンパス事務局棟に「入学センター」を設置し、このほど看板上掲式を実施しました。

同センターは、学長の提案の下、入学者選抜と入学者確保の機能を果たすべく、学長直属のセンターとして、2年間の構想・検討を経て設置されたセンターであり、長期的視野に立った大学の入学戦略を、大学の理念、目的、目指す大学像、アドミッション・ポリシーに則り、中期目標・中期計画及び当該年度計画に即して着実に遂行するために、①入学者選抜の確実・適切な実施とそのため体制整備、②多様な入学者の確保のための企画立案と実施を主目的とし、入学者選抜部門と企画開発部門の2つの専門部門を持つセンターとして5月1日に誕生しました。

また、同センターに対応する事務部門として、入試課を入学課に改編し、課長補佐及び入学センター係を新設しました。

看板上掲式では、菊池学長、池谷入学センター長、村中理事（教育担当）及び長谷川理事（総務・財務担当）が、事務局玄関に看板を掲げた後、菊池学長が「全入時代の幕開けが前倒し状況にある現在、入学センターの機能を十分発揮願ひ、適切かつ正確な入学試験の実施と入学者確保等に尽力願ひたい」との挨拶が行われました。



左から、看板を上掲する長谷川理事（総務・財務担当）、菊池学長、池谷入学センター長、村中理事（教育担当）

## ◇ バングラデシュ農業大学と学術交流・学生交流協定を締結

本学農学部では、平成18年5月10日(水)～13日(土)にかけて、バングラデシュ農業大学を訪問し、大学－学部間学術交流協定及び学生交流協定を締結しました。

農学部は、これまで海外の6大学と交流協定を行い、学術交流を積極的に進めており、今回で7大学目となります。

訪問団は、松田農学部長を代表とする学部教職員の計5名で、5月10日(水)、バングラデシュ農業大学を訪問しました。調印式は、翌11日バングラデシュ農業大学からは副学長(事実上の学長相当)、学部長ら大学関係者が出席する中、互いに協定書へサインし、締結を行いました。

バングラデシュ農業大学は、1961年に設立された同国唯一の国立農業大学で、場所は首都ダッカから約100km北のマイメンシン市にある。敷地540haに6学部41学科、教員数527名、学生数5001名、4研究施設および6農場を持つアジアで大規模な農業大学のひとつであります。

調印式終了後、歓迎の夕食会で懇親を深め、その後広大なキャンパス、施設、農場を視察しました。また、最終日にはバングラデシュ農業大学との共催による合同セミナー「アジアの食糧生産と環境保全」が開催され、研究者同士による活発な学術研究交流ができました。

今回の協定により、両大学の連携が強化され、ますます学術交流及び学生交流の発展を図る計画であります。



バングラデシュ農業大学アミル・イスラム副学長と松田農学部長

## ◇ 平成18年度全国大学附属農場協議会

平成18年度全国大学附属農場協議会春季全国協議会が5月11日、12日の両日にわたり、東京・南青山のホテルフロラシオン青山で開催され、本学から中島附属農場長・らが出席しました。

一日目は、会議に先立ち文部科学省専門教育課山内科学・技術教育係長から、教育基本法の改正状況について説明があり、続いて、会長の坂井直樹教授（筑波大学）を議長として、平成十七年度会務報告及び会計報告の承認が行われました。また、役員改選により萬田富治会長（北里大学）を選出後、平成十八年度事業計画並びに予算計画を承認され、「食育プロジェクト課題化推進に関する特別協議」では、時宜を得た議題となり、熱心な意見交換が行われました。

二日目は、農林水産省消費・安全局の引地消費者情報官から食育基本法の食育活動促進支援について説明があり、引き続き、平成十八年度全国大学農場技術賞受賞者を決定し、附属農場で単位取得した学生の「特別認定」制度への取り組み、附属農場ネットワーク化の取り組みについて活発な協議討論が行われました。

## ◇ 寺島薬局(株)から奨学金の寄贈

本学では、5月16日(火)にドラッグストアの寺島薬局株式会社(本社つくば市、田口武社長)から毎年300万円の寄付目録の贈呈があり、学生の奨学金制度を設けると発表しました。

会見では菊池学長から「大学は法人化三年目を迎え自立的な運営を求められている。奨学金の申し出は大変ありがたく、学生の資質向上につなげたい。」また、田口社長からは「少子化で介護する人口も減っていく中、介護などの分野に進みたい学生を支援したい。また民間企業として地域に貢献したい。」と述べられました。

この寄付金は「寺島薬局育英奨学金」として、茨城県内における介護、医療、福祉関係を目指す本学学生に対して、学部や成績を問わず、介護等を目指し、茨城地域での活動を志す学生に対して支給することとなりました。

寺島薬局育英奨学金は、年額を一括で1回に支給し、支給額は一人年額30万円とし、学部2年次以上の者(大学院生及び選考科生を含む。外国人留学生を除く)の中から毎年10人を公募し選考することとなっています。



寺島薬局田口武社長(左)から目録を受け取る菊池学長

## ◇ 男子柔道部が関東大会二部団体戦で優勝

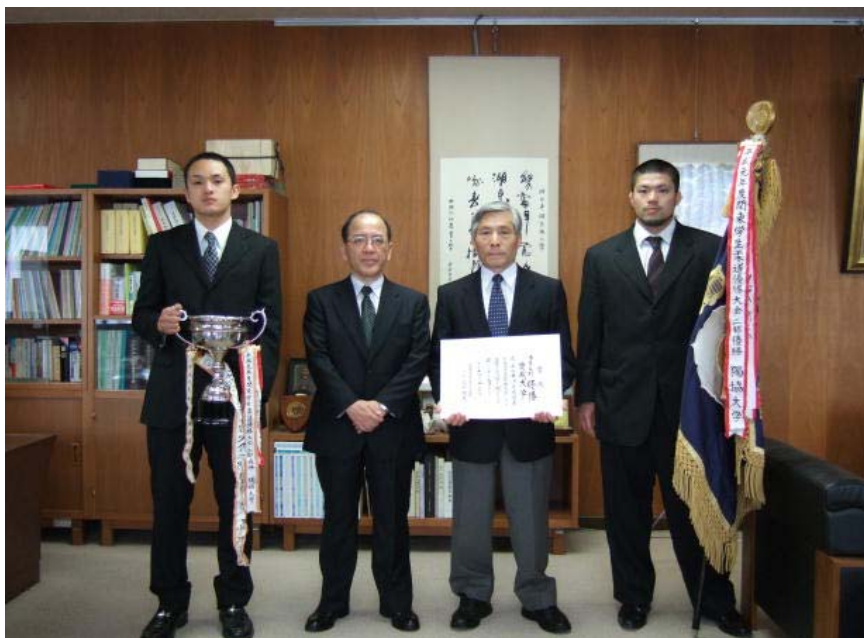
平成 18 年度関東学生柔道優勝大会は、5 月 21 日に埼玉県立武道館を会場として行われ、男子二部において、本学男子柔道部は初優勝を果たすことが出来ました。今までの本学の成績は、第 3 位には昨年までの 3 年連続を含む 11 回入賞していますが、決勝へ進むことは出来ませんでした。本年はその壁を打ち破っての優勝でした。

男子二部には、22 校がエントリーし 7 人制のトーナメント戦で行われました。本学チームは、佐和一大・松本英樹（教育 4 年）、服部佑（農学 4 年）、人見俊晃（工学 4 年）、中村豪（教育 3 年）、小野村俊哉・土屋慶佑・佐々木啓至（教育 2 年）、倉持昌弘（工学 2 年）、有吉貴広（教育 1 年）、川崎雄太（人文 1 年）、近江谷亮太（工学 1 年）の 12 名のメンバーで戦い、4 年生を中心に試合ごとにオーダーを変更しながら戦いました。

試合内容は、初戦の 2 回戦で防衛大に 4 - 2 と少し苦戦するものの、3 回戦では獨協大に 7 - 0 と大勝し、準決勝戦の平成国際大には、4 - 1 で危なげなく勝ち、念願の決勝戦に進みました。決勝では先鋒の有吉から小野村、佐和と 3 戦続けて勝利し、続く土屋、中村の 2 戦は敗れましたが、副将の服部が「一本」でチームの勝利を決めると、大将の人見も「一本」を決めて 5 - 2 とし優勝に花を添えました。

入れ替え戦では、残念ながら 1 - 4 で清和大到に敗れ一部 8 校への昇格はなりませんでした。素晴らしい内容の二部優勝は誇りにしてよい結果となりました。

このような好成績を残せたのは、厳しい稽古の積み重ねの賜で柔道部全員の努力が結実したのだとして、さらに一步上を目指して精進を重ね稽古に励むと意を新たにしています。全学の皆様のさらなる応援をお願いいたします。



菊池学長へ優勝を報告する学生と尾形顧問

## ◇ 新任教職員研修会について

新任教職員研修会は、国立大学法人の諸制度、本学の概要及び当面の諸課題等を研修し、本学の運営について理解を深めることを目的として実施しておりますが、平成18年度からは内容等の充実を図り、FD（SD）活動の一環として実施しました。

研修は、他の大学等から本学に採用になった教職員を含め42名が参加して5月24日、31日及び6月7日の3日間にわたり開講された。

研修では、菊池学長の「学長講話」では、（茨城大学の沿革、教育研究組織、大学運営のポイント、大学の主な課題等）の講義を始め「組織と運営の諸課題」、「就業規則」、「給与制度」、「安全教育」「個人情報」、「ハラスメント防止」、「教養教育の実施体制と大学教育センター」、「財務制度」、「高等教育の課題」、「本学の地域連携の推進体制」及び「本学の研究推進体制」、「本学における教員評価の状況」等の多岐にわたる講義が行われた。

また、最終日には各講師と研修受講者による質疑を行う「総括質疑」が行われ活発な質疑応答が行われた。



菊池学長の講話

## ◇ 農学部で1年次生との交流会を開催

茨城大学農学部では、5月26日（金）、同学部1年次学生を阿見キャンパスに招いて、教員・学生との交流及び阿見キャンパス紹介を実施しました。

これは、1年間水戸キャンパスで過ごす1年次学生は、農学部のある阿見キャンパスを知らない者が多いため2年次前に阿見キャンパスに来てもらい、農学部学生として意識の高揚を図るために行われたものです。

当日は各学科説明、施設見学、研究室紹介、学生寮の案内及び教員・学生との懇談会が実施されました。

1年次学生のほぼ全員が出席し、学生アンケートでは「先輩と交流をもてた」、「研究室の雰囲気があった」、「参加して良かった」など意見が多く、午後の短い時間であったが、充実した交流会となり、有意義な企画となりました。



キャンパス内を見学する1年次生

## - 「NHK 県域デジタルTV放送」

茨大タスクフォースだより 4月号 -

毎週木曜の18時35分から、NHK水戸放送局公開スタジオ「飛び出せ！キャンパス」のコーナーでは、本学や筑波大、東京芸術大取手キャンパスの学生が提供した映像作品が紹介され、併せて、企画・撮影にあたった学生たちが司会者とトークを行っています。

平成18年4月6日(木)・・・茨城大学自主映画制作の会の活動紹介

(教育学部理科教育2年次 黒須祐基くん)



写真は

自主映画制作の会の皆さんと  
イタリアンな 大木アナウンサー

・君と夏影

(黒須さん制作)

を紹介しました。

NHK水戸放送局公開スタジオにて：

左から、黒須くん、三浦くん、大木アナウンサー、欠戸さん

NHKでは、地元にある大学で学ぶ学生たちの自由な発想による映像作品を紹介し、視聴者に興味を持ってもらえるコーナーを目指しているそうです。皆様のご協力をお願いいたします。

デジタルテレビ放送は、生協の1階食堂と大学会館食堂のテレビで見ることができます。